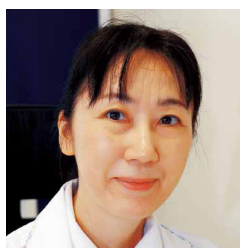


糖尿病・
甲状腺
糖尿病甲状腺
外来・甲状腺
腫瘍外来

甲状腺の病気で女性スタッフによる診療 傷痕が目立たない小切開内視鏡手術



▲竹内 理恵医師
旭川医科大学卒。日本内科学会認定内科医、総合内科専門医、リウマチ専門医、日本糖尿病協会登録医。医学博士。

甲状腺の病気は女性に多く、橋本病は女性の13人に1人が、バセドウ病では同じく200人に1人が罹患するといわれている。

①甲状腺ホルモンの分泌異常や②甲状腺内の腫瘍などで、①はバセドウ病や橋本病、②は甲状腺がんや腺腫様甲状腺腫が代表的。

同院では、女性の患者が多いことから竹内理恵医師や大場知穂医師など複数の女性医師が診療に携わり、甲状腺エコー検査では女性検査技師が担当、患者が相談しやすい環境を整えている。

甲状腺疾患は不妊の原因になったり、妊娠中の甲状腺ホルモンの管理に専門性が求められるため、



▲大場 知穂医師
旭川医科大学卒。日本内科学会認定内科医、日本糖尿病学会専門医、日本内分泌学会内分泌代謝科(内科)専門医。

同院には妊婦の患者も多い。注意したいのは、更年期障害との鑑別だ。閉経を迎える40歳以上では、発汗やほてり、動悸、いらいら、不眠などの更年期症状を呈しがちだが、「これらの症状の原因が甲状腺疾患である場合もあります」と竹内医師。

大場医師も「年齢のせいだと諦めていた症状が正しい治療で解決する場合もあるので、一度専門医に相談を」と説明する。

ところで甲状腺がんやバセドウ病などで手術が必要な場合もある。これらの疾患で整容性にすぐれた小切開による甲状腺内視鏡手術を担当するのは、片山昭公医師だ。



▲片山 昭公医師
旭川医科大学卒。札幌徳洲会病院甲状腺内視鏡サージセンター・センター長、旭川医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室臨床指導教授等。日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門医・指導医、日本頭頸部外科学会頭頸部がん暫定指導医、難病指定医等。医学博士。

を務め、毎週土曜日にこちらのクリニックで診療。

通常、バセドウ病の手術は10センチ以上の頸部切開、甲状腺がんで7〜8センチの頸部切開が必要になる。術後の傷痕が目立ち、手術をためらう患者も多い。また甲状腺がんは手術で甲状腺組織を採取しなければ確定診断がつかず、手術の遅れががんの進行を招くこともある。

片山医師が行う内視鏡手術(VANS法)は、開襟のシャツで隠れる鎖骨の外側下に2・5センチの切開1カ所と首には内視鏡を挿入する5ミリの切開1カ所済み、術後の傷痕が目立たない。具体的には鎖骨の下から首の皺に沿って斜め

片山医師は札幌徳洲会病院の甲状腺内視鏡サージセンター・センター長

さっぽろ糖尿病・
甲状腺クリニック
札幌市北区北7条西2丁目8番地1
札幌北ビル2F
☎(011)707・1024

に切開、甲状腺まで剥離し、片山医師が開発したデバイスで皮膚を持ち上げ、首の内部に手術する空間をつくる。その後、首の横を切開し内視鏡カメラを挿入して首の下側にある甲状腺を摘出する。この小切開で例外を除いたほとんどの甲状腺(バセドウ病の場合・150ml容量)を全摘できる。

片山医師は、この手術を570例ほど実施。厚労省の認可基準が厳しく、この手術を行える医療機関は札幌徳洲会病院を含め、道内に4施設しかない。

同院では、甲状腺の疾患で手術が必要な場合には、片山医師の診療を経て札幌徳洲会病院などで手術を行っている。

「執刀医が当院で診療しているのは、患者さんにとって安心で、ためらいがちな手術に対する敷居が低くなりました」と竹内院長。